

# リーダーになる!

実践する上司学。  
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読「ラム」。



嶋津良智 リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

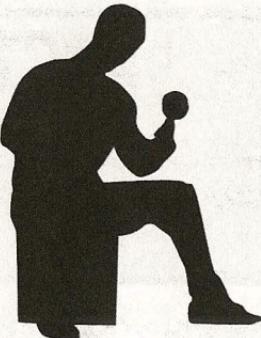
## 第61回 ドッジボールしない

言葉を一方的に投げつけるドッジボールをしてはいけません。会話の理想の形はキャッチボールです。受け取つて投げ返しましょう。

しっかり受け止める  
そして返すのが会話

会話はキャッチボールに例えられますね。つまり、会話とは「言葉」というボールを受け取つて、そのボールを投げ返すことによって成り立つていています。当たり前のことはあります。当たり前のことのように思いますが、実際には受け取つたボールをしっかりと投げ返している人は意外に少ないものです。

白いボールを受け取つて



いるのに、突然黒いボールを返球してしまつているのです。言葉のドッジボールと例えましょうか。次のような感じです。

「課長、今日の仕事は難しくて、結構大変でした

正しい会話のキャッチボール

言葉の意味  
意識的に考える

部下に話し掛けられた

の話を聞いているよう

で、自分の話、自分の

意見、見解を述べてい

ることが多いもので

す。要するに、言葉で

相手を裁いてしまつて

よ」「そんなこと言つてるからダメなんだよ。おまえの力が足りないから、難しい感じるんじゃない?」

部下が「仕事が難しかった」「大変だった」と言つているのですから、まずは受け止めて、「そうか、それはお疲れさんだったな」「どうの辺りが難しかったんだ?」と返してあげるのが、正しい会話のキャッチボール

입니다。しかし、それが正しいコミュニケーションではありません。部下が上司の意見や見解を求めていることが明らかならば、その返答でも構いませんが、部下の話というのではなく、その種のものばかりではありません。

一度、意識して同僚友人、他人の会話に耳を傾けてみてください。あまりにとうひなやり取りが当たり前のように交わされていて、ちょっと驚くと共に、不思議に思うことです。

一度、意識して同僚友人、他人の会話に耳を傾けてみてください。あまりにとうひなやり取りが当たり前に思われるようにしてください。

（『上司のルール』より転載）